



3月の園だより



令和8年3月 富田林市立錦郡幼稚園

『まとめ』と『準備』と
～ 時は流れゆくとも ～

例年、3学期の始業式(1月)には、こどもたちや職員に『3学期は0学期』という話をしています。これは、3学期は今年度の『まとめ』の学期であるとともに、次年度(1学期)に向けた『準備』の学期(1学期の前の学期だから0学期)であることを十分理解して生活して行って欲しいという私の願いからです。話をしながら、自分自身にも言い聞かせていることでもあります。

いよいよ3月を迎えました。3月は、こどもたちと一緒に『まとめ』と『準備』の両方を最終確認していきます。「そうか、わかった!」と「よっしゃ、さあいこう!」の両方という感じででしょうか。

さて、今年度最後の園だよりとなりました。そこで、すべての『にしこおりファミリー』のみなさんに・・・

- 『まとめ』として、次のことばを贈ります。

つまらないものでも、自分が情熱を賭けてうち込めば、それが生きがいだ

【岡本太郎 1911～1996 芸術家】

生きること、そのこと自体が美しく尊いものなのです。

- 『準備』として、次のことばを贈ります。

どの道でも足の向くほうへゆけば、必ずそこに見るべく、聞くべく、感ずべき獲物がある

【国木田独歩 1871～1908 小説家・詩人】

挑戦(チャレンジ)することの本当の意味は、ここにあるのですね。

過日新聞に、侵攻が続くウクライナの11歳のこどもが書いた『平和と戦争』に関する文章が掲載されていましたので紹介します。

「平和」という言葉を聞くと、サイレンのない穏やかな空を思います。

想像するのは、子どもたちが落ち着いて学校に足を運び、外で遊んでいる様子です。

私にとって、「平和」とは、大好きな人たちがそばにいて、誰も心配しなくてもいいことです。

「戦争」という言葉を聞くと、悲しい気持ちになります。厳しい時を過ごしている人びとのことを考えてしまいます。

最後には善が勝つと、私は信じています。

すべての『にしこおりファミリー』のみなさん、今年度もたいへんお世話になりました。あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

園長 塩野 義和